

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービス芳泉		公表日 令和 8 年 3 月 25 日		
		チェック項目		工夫している点		課題や改善すべき点
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	6	スタッフの人数を調整していく。	スタッフと子どもの人数によっては部屋が狭く感じることもある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	9	スタッフの人数を調整していく。	人員基準は満たしているものの、利用人数に対して1対1で子どもに付けない日もある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	3	ベビーゲートを設置することで、活動に集中できるようになった。玄関で転倒しないよう見守っている。絵を使い子ども達に分かりやすくしている。	活動中に部屋から飛び出す子供がいた。玄関に上がり框がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	2	各部屋にスタッフを配置し見守っていく。清掃は日々行っているため、過ごしやすい環境である。	死角になる場所がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	3	クールダウンのため、別室でスタッフと過ごしている。	気持ちが崩れる子どもがいる。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	1	職員間で個々の児童の振り返りをし、今後の支援について話し合いを行っている。	実施できている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	保護者様からの意見を取り入れて、問題点は職員間で話し合い、改善していけるよう取り組んでいる	実施できている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	小さいことも相談しやすい環境と感じているスタッフもいる。改善できないことは、理由を共有していく。意見を聞く機会を増やす。	意見が改善されないと感じているスタッフがいた。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3		第三者評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	2	外部研修や内部研修に参加する機会が増えた。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		昨年同様、適切に作成及び公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		子どものアセスメントと保護者面談により作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		ミーティングで個別支援計画を確認する時間やモニタリングの時間を設けている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	1	個別支援計画を回覧し、ミーティングでも個別支援計画を確認している。	書類に目を通す等、個々に把握することもある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11		いつもと違う様子が見られた場合は、職員間でリアルタイムで話をしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		様々なことに配慮した個別支援計画になるよう考えている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		ミーティングで話し合っている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		担当を変えているので、同じ「運動遊び」でも様々な内容を提供できている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		制作なども、子どもの発達に合わせた内容に変えている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	2	不明点は、お互いに声を掛け合い支援できている。	出勤時間にばらつきがあるため、一部のスタッフに関して、申し送りをノートで確認するケースがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	3	すぐに送迎時間となるため、送迎後に時間を設けるようにしていく。	退勤時間にばらつきがあるため、申し送りや意見交換が少ない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		経過記録を後から確認できるため、改善につなげることができている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		ミーティング等でモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		子どもの担当スタッフが参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	1	地域の相談員、保健師等と連携して支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	1	併行利用に関しては、お互いに見学に行くか電話で共有する等、保育所等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	園によって情報量にばらつきがある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	1	市内の小中学校や特別支援学校に関しては会議で相互理解を図っている。	市外の場合は、会議参加の声がかからない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2	来年度は児童発達支援センターが設置されるため、連携を取っていききたい。	市内に児童発達支援センターがないためできていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	5	併行通園の子どもがほとんどのため、個々に交流はできている。	園に通っていない子どもの場合は、交流する機会はない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		連絡帳やSNS、帰りの送迎時に、保護者へ今日の様子をお伝えしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	毎月行っている臨床心理士相談会の案内をお渡ししている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		契約時に実施している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		サービス等利用計画との整合性を図り、保護者面談時に案を説明し同意を得ている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11		保護者面談で案を提示し、説明および同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		定期的に保護者面談で必要な助言をし、利用時には交換ノートでお伝えしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	5	茶話会を開催し保護者同士の交流の場を設けている。兄弟児も保護者面談で連れてこられた際は子ども達の部屋で交流している。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		電話やSNS、送迎時等に直接保護者と連絡を取り対応している。個別面談が必要な際は実施している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12		毎月のお便り、HPブログ、Instagram等で定期的に保護者に発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		子どもに関する資料等は、直接手渡ししている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		ひらがな表記や、絵カード等の工夫をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	6	今後検討していく。	地域とつながる活動ができていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	契約時に説明をしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1	活動の中に取り入れていく。	避難経路を掲示しているが、実際に歩く機会がほとんどない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11		契約時や、新たに必要になった際は都度確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		一覧表を作成する。保護者とは、アレルギーの情報をいただき、おやつ作りの際も個々に連絡をし確認している。	一覧表がない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全計画を作成し、委員会で研修及び訓練を実施している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		契約時に説明している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		気付いた時に個々に作成し、回覧している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		委員会活動を通じ、またカメラを設置する等、虐待防止への意識づけと、虐待が起こらない環境を作っている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		契約時に説明し同意書をいただいている。また委員会を通じて周知している。		